

行歯会だより 第94号

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会) 平成 26 年 2 月

【今月の記事】

- 1 地域活動歯科衛生士の育成プログラムの取り組みから
島根県出雲保健所健康増進課 歯科衛生士 中島和子
- 2 平成 25 年度 行歯会理事会報告

地域活動歯科衛生士の育成プログラムの取り組みから

島根県出雲保健所健康増進課
歯科衛生士 中島和子

【はじめに】

行歯会のみなさま、こんにちは。

いつも、行歯会からのメールでいただく情報や会員のみなさんの歯科口腔保健に対する気持ちに「自分もがんばろう」と刺激を受け、全国の仲間のありがたさを感じています。

今回、「記事を書いていただけますか？」と三重県の石濱先生から声をかけていただいた時、思い出したのは、平成 19 年に国立保健医療科学院の歯科衛生士研修に参加したとき、安藤先生からの「情報はギブアンドテイク。情報が欲しい、だけを言うのではなく、自ら発信することで情報は集まってくる」という一言でした。大きな調査や研究ではないのですが、日頃の業務の中で「人材育成」に着目して地域の課題を整理し取り組んだことが、みなさんの業務の参考になればと思ったこと、全国の歯科職種の方から「うちの保健所は、こういう取り組みだよ。」「出雲の課題はうちの保健所のこんな工夫が使えるかも？」等々教えていただけるチャンスとも考えたので、書かせていただくことにしました。

私が勤務する出雲保健所は、管内に今年 60 年ぶりの「遷宮」で有名な出雲大社があり、人口約 17 万人、基礎自治体として出雲市の 1 市を管轄し、歯科保健は市役所歯科担当保健師（歯科衛生士は未配置）を中心に住民サービスは企画・実施されています。私は県型保健所の歯科衛生士の立場から専門的助言、人材育成や研修、調整機能の部分を行い、市と連携をとりながら事業を展開しています。

県としては県庁（健康推進課）に歯科医師 1 名、保健所に歯科衛生士が私を含め 3 名配置され、横の連絡をとりながら全県の歯科保健に取り組んでいる状況です。

【歯科保健の課題整理から見えてきた！「育成」が緊急課題】

平成 23 年度に出雲保健所に着任し、圏域の歯科保健の課題は何かを明確にするところから始めました。前年度、前々年度のファイルをみたり、各種データ（母子保健の健診・問診項目の集計システム、学校保健統計、残存歯数調査結果、歯周疾患

検診結果等) から傾向をみたり、市役所の歯科担当保健師、市の日々雇用で活動する「地域活動歯科衛生士」等と話す中で、自分なりに地域の歯科保健の課題を整理し、課題と対応策(私案)をまとめました。

	現状・課題	対応策
母子 ◎むし歯は減少	母子の健診で集計しているデータを活かした指導ポイントをスタッフで共有できていない	健診の間診のデータからみえる課題から共通指導ポイントを市と検討して指導に活かす・・・1年目に取り組む
学童 △12歳児の永久歯むし歯本数は横ばい	フッ化物洗口が全体に波及出来ていないが、基盤となる歯科医師会との話し合いが必要	健康増進計画策定の中で、歯科医師会とのすり合わせを行う・・・長期的に取り組む
成人 △40～50歳代の中等度以上の歯周疾患の割合は6割で横ばい。40代は増加傾向	事業所での歯科検診実施率5%と低い 歯科健康教育・啓発など未実施 歯周疾患検診受診率も10%弱と低い	事業所への出前講座等実施・・・2年目に取り組む。壮年期の歯周疾患対策は、歯科医院での医療と保健活動がつながるよう歯科医師会との連携、地域・職域連携の面からアプローチ
高齢者 ○8020達成者は増加傾向 一般高齢者の歯科健康教育・健康相談回数が少ない	市介護保険事業計画策定に歯科医師会への声がかかっていない 口腔機能向上の取組から訪問診療までの流れがまわっていない	市介護保険担当課(二次予防)と、二次予防事業担当地域活動歯科衛生士と歯科医師会担当のDrとの顔が見える関係づくり・・・3年かけて取り組む
人材育成 ×地域の歯科保健事業に対応するマンパワーが事業量に対し不足している	地域活動歯科衛生士が市歯科保健事業に対応しているが、人数が少なくギリギリの人数で急病等があると事業に支障が出ている状況	歯科保健事業実施に支障がでるおそれがあるため、すぐに潜在的なマンパワーを発掘する・・・1年目に取り組む
体制づくり △歯科医師会との連携が十分とはいえない	地域活動歯科衛生士の会と保健所との連絡会は月に1回あり、市の活動把握が可能だが、市担当者の出席がない。年に1回歯科医師会と会議がある	歯科医師会との情報のやり取りができるよう役員の先生とこまめな連絡をとる ・・・長期的な関係性の構築

上記のとおり、すぐに取り組むこと、中長期的に取り組むことで課題を整理し、「人材育成」は早急に取り組むこととしました。

【地域活動歯科衛生士(在宅歯科衛生士)の発掘と育成の試み】

地域活動歯科衛生士の会(以下「ハイジの会」)で「自分たちが元気なうちに次の世代の育成をしていくべき」という意見に背中を押されて、「ハイジの会」とともに、人材の発掘と育成プログラムの作成を行いました。

■発掘・育成の目的

- (1) 地域活動歯科衛生士として活動できる人材を発掘し、事業実施に支障が生じないようにする
- (2) 発掘した人材が求められる業務に対応できるよう、現任教育プログラムを作成し、育成する

■人材育成に対する先輩地域活動歯科衛生士の思い

「自分たちが培ってきた歯科保健指導・健康教育のポイントを伝えたい」「保健師、栄養士等多くの職種と活動する楽しさを伝えたい」「階段を一段ずつあがるように、育成していきたい」「育成については、現場で自分たちが育てる部分、保健活動として行政・保健所の立場から指導してもらおう部分と両輪ですすめたい」

■育成の取組内容

ハイジの会のメンバーを中心に歯科衛生士養成学校の同級生で 2 名（ブランク 15 年）を発掘しました。

<長期プログラムの作成>

- ・方法；毎月開催しているハイジの会において、H23 年 7～8 月にかけて検討
- ・メンバー；ハイジの会の 50 代の中心メンバー 4 名と保健所歯科衛生士で検討
- ・作成ポイント；自らの地域活動歯科衛生士の活動を振り返り、ブランクがあっても対応しやすい事業、研修・経験が必要な事業、その理由を整理し、母子→成人→高齢者の順にプログラム化

<長期育成プログラムの構成>

母子 ↓ ↓ ↓	ステップ 1	1 歳 6 か月児健診 …歯科保健指導・フッ化物歯面塗布・歯科健診介助・記録
	ステップ 2	3 歳児健診…歯科保健指導・歯科健診介助・記録
	ステップ 3	乳幼児相談…歯科健康相談
	ステップ 4	子育てサークル・保育所・小学校の歯科健康教育
成人 ↓	ステップ 1	成人歯科相談（特定保健指導含む）
	ステップ 2	成人健康教育（職域含む）…歯周疾患、口腔機能向上（アンチエイジング等）
高 齢 者 ↓	ステップ 1	一次予防事業…健康教育（口腔機能向上をメインに）
	ステップ 2	二次予防事業…アセスメント、個別指導

<短期プログラムの作成、実施>

母子歯科保健の基本を学ぶ	母子の健診場面の見学、実習（OJT）
平成 24 年 1～3 月 ハイジの会の時にミニ研修（3 回） ○「乳幼児期の歯科保健指導マニュアル」（島根県作成）により講義（HC 歯科衛生士） ・乳幼児のむし歯予防について ・乳幼児期の口腔機能の基礎知識 ・乳幼児の生活習慣の傾向 ○先輩歯科衛生士との意見交換	平成 24 年 1 月： 出雲市の 1 歳 6 か月児健診を学ぶ（4 会場） ○理解ポイント ・健康診査のカルテの項目、記載事項の理解 ・カルテの歯科関連項目の理解 ・歯科医師による歯科健診結果の保護者への説明 ・歯科衛生士の保護者への説明の態度、指導ポイント等 ・各会場の特徴

新規 2 名の歯科衛生士は、平成 24 年 4 月から出雲市の 1 歳 6 か月児健診に対応

先輩～「人数がギリギリの時より安心感がある」

「自分も一緒に勉強し、初心に戻ることができた」

後輩～「ブランクがあるが、少しずつ覚えていけるし、困ったら先輩に聞けるところがいい」

市保健師～「歯科の事業で人材がいなくて困るということがないので、企画がしやすい」

■まとめ

- ・プログラムに基づき育成することで、ブランクがあっても大きな負担感なく業務に従事できることがわかりました。
- ・プログラムを明確にすることにより、次のステップ、獲得目標を先輩・後輩双方が意識化できました。
- ・歯科衛生士の養成カリキュラムは法律・時代背景で特徴があるので、資格取得の時代に応じプログラムは検討する必要があります。

【終わりに】

保健師さんが歯科担当で、地域の住民の「歯・口腔の学びの場」をマンパワー不足が理由で事業化してもらえない、なんてことのないよう・・・と人材を育成しましたが、ある程度の人数の確保、また自主グループ「ハイジの会」による質を確保し、住民サービスの向上につながっている実感があります。

私は現在、歯科保健以外にも、健康増進計画の進行管理、地域・職域連携、がん検診（精度管理・啓発）、母子保健の一部（小児の事故予防）など担当していますが、他の事業を担当することで継続した事業展開、地域の人材育成等考え方をまとめるのに役立ちました。

歯科保健の人材育成は正規、嘱託、日々雇用、保健師・栄養士等々、多様な立場・職種を考える必要があります、ひとつの種類のマニュアルでは現場で通用しないかな？というところを感じています。

今後、歯科保健を理解し取り組む人を育てること、事業が継続できることを意識しながら、色々な立場・職種向けの「歯科保健活動の手引き」のようなものを少しずつ整えられたら、と考えています。

これからも、行歯会の会員みなさんにアドバイスをいただきたいと思います。今後ともよろしく願いたします。

平成 25 年度行歯会理事会が開催されました！

葛飾区保健所 田村 光平

平成 26 年 1 月 31 日（金）、オフィス東京にて第 3 回行歯会理事会が開催されました（14 名参加）。これまで理事懇談会は定期的で開催されていましたが、正式な理事会の開催は、平成 19 年 3 月 24 日の第 2 回理事会開催以来となります。

当日は、理事会開催に先立ち、15 時から厚労科研「歯周疾患と糖尿病等との関係に着目した歯科保健指導方法の開発等に関する研究」の研究分担者である安藤事務局局長招集による分担班会議が開催されました。班会議では、滋賀県甲賀保健所長の井下先生から、滋賀県における糖尿病と歯周病の医科歯科連携事業の説明が行われたほか、各理事から各地の事業紹介が行われました。理事会の開催時間が若干遅れ

るくらい、事業内容に関する質問や議論が白熱した班会議でした。
理事会で協議された内容は以下になります。

日 時：平成 26 年 1 月 31 日（金）16：45～18：30

場 所：オフィス東京（東京都中央区京橋 1-6-8）

出席者：長会長、青山副会長、高澤副会長、中村事務担当理事、秋野事務担当理事、
加藤事務担当理事、吉野事務担当理事、片岡ブロック理事、中條ブロック
理事、金森ブロック理事、堀江ブロック理事、安藤事務局長、井下歯科医
師（オブザーバー）、田村事務担当理事

自己紹介

- ・正式な理事会の開催は、平成 19 年 3 月 24 日の第 2 回理事会開催以来ということもあり、各理事が自己紹介と近況報告を行った。

報告事項

- ・厚生労働省歯科保健課長の交代に伴い、平成 26 年 1 月 31 日の午前中に、長会長、安藤事務局長、中村理事で歯科保健課を表敬訪問した。
- ・鳥山新課長から、○歯科衛生士の厚生労働省への採用の件については前任より聞いている、○成功例より失敗例に学ぶことが多いと思うので会運営の参考に、○行歯会だよりに新課長の挨拶文を載せるなどの話をする事ができた。

協議事項

1. 基盤強化対策

1) 事務担当理事の規約改正

- ・行歯会の活動を強化するため、現在、規約で 6 名以内となっている事務担当理事を、規約を改正して 8 名以内とすることが提案され、了承された。
- ・新たな事務担当理事として、歯科医師から葛飾区保健所健康推進課の田村光平氏が、歯科衛生士から船橋市健康増進課・中央保健センターの吉野ゆかり氏が、長会長により指名された。

2. 目標に向けての会の活動

1) 厚生労働省の歯科衛生士雇用対策

- ・歯科保健課に研修生を配置する件について、現状報告があった。
- ・行歯会としては、日本歯科医師会、日本歯科衛生士会と連携しながら、常勤での歯科衛生士の配置を要望していくことが確認された。

2) 行歯会だより 100 号特集に向けて

- ・現在 93 号まで発行されており、森木副会長、藤川ブロック理事が担当の時に 100 号を迎えることから、何を企画するかアイデアを出し合った。

アイデアの例

- 日本歯科医師会、日本歯科衛生士会、厚生労働省歯科保健課との座談会を行う。
- 過去の編集担当に数百字程度で歴史を振り返ってもらう。
- 中村事務担当理事に 10 年後の未来を夢想してもらう。
- シンボルマークを考案する。
- 100 号の内容をタイムカプセルのようにして、200 号で振り返る。
- うまくいったことではなく、できなかったことや失敗したことを書く。
- 功労者表彰を行う。

3) 会員アンケート第2弾

- ・ 次回のアンケートについては、会員による歯科大学・歯科衛生士学校での講義状況に関するアンケートを行うこととした。

4) その他

- ・ 歯科行政職の必要性と業務に関する提案として、5歳児のう蝕罹患状況（特に格差）の把握の必要性が示された。
- ・ 全国の5歳児のう蝕罹患状況の把握に向けて、まずはデータをHPにアップしている自治体の把握を行い、「歯っとサイト」にリンクを貼ることとした。
- ・ 担当には、金森ブロック理事と田村事務担当理事が指名された。

3. その他

1) 「歯っとサイト」の運営について

- ・ 当初はユーザーからのリンクの推薦を期待したが、反応がないため、情報を能動的に集めることとし、歯科医師会にも情報提供を打診することとした。
- ・ 自治体にはHPにアップしていない有用な情報があることから、電子ファイルによるデータの提供を受け付け、事務局でアップしていくこととした。
- ・ 担当は、秋野事務担当理事、岩手県庁の森谷歯科医師、吉野事務担当理事の3名体制とした（森谷歯科医師には理事会後に打診し、了解が得られた）。

○ 歯科口腔保健の情報提供サイト（通称：歯っとサイト）

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html>

2) 科研報告『質の高いサービスを提供する為の地域保健行政従事者の系統的な人材育成に関する研究』

- ・ 都道府県保健所および市町村の歯科保健担当者に対して実施したアンケート調査の結果報告が行われた。
- ・ 本調査結果については、本年5月に熊本市で開催される第63回日本口腔衛生学会・総会でポスター発表することとした。
- ・ 今回の研究班による研究は今年度で終了することから、今後、行歯会が協力して行う調査の有無について質問が出されたが、次に何を行うかは決まっていない旨が報告された。

3) 平成26年度日本公衆衛生学会自由集会

- ・ 本年11月に宇都宮市で開催される第73回日本公衆衛生学会総会で、歯科のシンポジウムと自由集会を開催することが報告された。

4) その他

- ・ 厚生労働省歯科保健課への表敬訪問時に、歯科保健課から北海道・東北ブロックのみ歯科保健担当職員によるブロック会議が行われていないことから、検討していただきたい旨、指摘があった。
(秋野事務担当理事が各道県庁に国の意向を伝えることとした。)

なお、理事会終了後は、金曜日の夜で、遠方から来た理事も多いことから、出席者みんなで少々のアルコールを交えながら親睦を深め、夜遅くまで歯科保健行政の将来に対する前向きな議論を楽しみました。

編集後記

ニュースでは全国的に記録的な大雪で大変なことになっています。皆さまの地域では大丈夫でしょうか。さて、いつの間にか、今年度も終わろうとしています。きっと年度末に向けやり残しのないよう最後のチェックをしているところだと思います。先日、フッ化物啓発用の資料をつくっていた時、3歳児のむし歯の都道府県別順位が、平成18年度だけどうしてもなく、困っていました。その時、はっと思い出したのが「歯っとサイト」。探してみるとありました！うれしくて一人でニヤリとしてしまいました。いろんな情報やデータをどんどん更新していくことでますます使いやすくなります。このたよりと合わせて皆さまと一緒に育てていただき、情報共有していければ大変うれしく思います。どうぞよろしくお願いします。

(M)

今回は人材育成の記事をいただきましたが、皆さんの地域ではいかがですか？

歯科口腔保健を推進していくためには、地域活動歯科衛生士（在宅歯科衛生士）の方の協力はとても大きいです。しかし、なかなか発掘ができず、発掘できてもblankや人前での話しはできないなど、人材確保の難しさを痛感します。（特に地方にいれば、更にですが・・・）

そのためにも、発掘で把握した歯科衛生士が安心して歯科保健指導を実践できる環境づくりは重要だと感じました。

他に、「うちではこんなにしてますよ」という取組がありましたら、どしどし情報をお待ちしています。

(H)